修士論文（要旨）
2013 年 7 月

中国朝鮮族の複言語意識に関する事例研究
－移動・越境とアイデンティティに着目して－

指導　宮副ウォン裕子　教授

言語教育研究科
日本語教育専攻
211J3903
呉恵娟

目　次

第1章　はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
1.1　研究背景 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
1.2　研究目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
1.3　先行研究と用語の定義 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

第2章　調査概要と分析方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
2.1　調査概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
2.1.1　調査協力者 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
2.1.2　調査方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
2.1.3　調査内容 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
2.2　分析の理論的枠組み ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

第3章　C1の事例 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
3.1　記述と分析 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
3.1.1　言語習得の背景 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
3.1.2　各言語に対する意識 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
3.1.3　移動・越境によるアイデンティティの構築 ・・・・・・・・・・・22
3.2　考察 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
3.2.1　言語意識についての考察 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
3.2.2　アイデンティティの構築についての考察 ・・・・・・・・・・・・30

第4章　C2の事例 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
4.1　記述と分析 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
4.1.1　言語習得の背景 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
4.1.2　各言語に対する意識 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
4.1.3　移動・越境によるアイデンティティの構築 ・・・・・・・・・・ 46
4.2　考察 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50
4.2.1　言語意識についての考察 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50
4.2.2　アイデンティティの構築についての考察 ・・・・・・・・・・・ 54

第5章　総合的考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57
5.1　移動･越境による中国朝鮮族の複言語意識 ・・・・・・・・・・・ 57
5.2　複言語意識とアイデンティティ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59

第6章　まとめと今後の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 62
謝辞
参考文献
巻末資料

要　旨

キーワード：中朝バイリンガル、移動・越境、言語意識、アイデンティティ、複言語話者

本研究は、地域間、国家間を移動する朝鮮族を対象に、複言語話者である中国朝鮮族の言語の選択と使用から言語意識とアイデンティティの関係を論じるものである。研究の目的は、(1)中国朝鮮族はどのような言語意識をもっているのか、(2)中国朝鮮族の言語意識とアイデンティティはどのように関係しているのか、という2点を明らかにすることである。本論では、バイリンガルの言語能力ではなく「個」に応じた言語にまつわる意識、さらに言語を通した経験による社会とのかかわりに注目し、分析と考察を行う。

本論は全6章の構成となっている。第1章では研究の背景や先行研究を紹介し、用語の定義を行う。第2章では調査概要と分析方法を提示する。第3章から第4章では調査協力者2名の事例を記述し、分析・考察を行う。第5章では2つの事例に基づいた総合的考察を行い、第6章では本研究のまとめと今後の課題を述べる。

中国朝鮮族についてこれまで様々な研究が発表されてきた。その中で特に藤井(1993)の朝鮮族の研究は、日本人の視点からの朝鮮族の日常生活における言語使用状況や今後の中国朝鮮族の教育問題などについて考察し、様々な示唆と貴重な意見を与えてくれた。一方、金(2011)は中朝バイリンガル中朝バイリンガルの朝鮮語習得について言語文化要因、家庭的要因、教育的要因から分析し、彼らの朝鮮語に対する意識を分析・考察している。今後の課題として、中国朝鮮族の中国語、外国語に対する意識の調査、および、それらの朝鮮語に対する意識との相関関係の分析・考察を挙げている。本研究の目的は、金(2011)の研究成果と考察結果に基づき、地理的移動が以前にも増して頻繁に起きている中国朝鮮族の複言語意識、及びアイデンティティを明らかにすることである。

本研究における調査協力者は中国東北地区(黒龍江省、遼寧省)出身の中国朝鮮族の2名である。調査方法は半構造化インタビュー(村岡2002)を行い、言語にまつわるエピソードを語ってもらった。そこで得られたデータを文字化し、分析を行った。分析は箕浦(1999)の分析カテゴリーを用い、エスノグラフィーに基づく記述分析を行う。分析方法には、インタビューデータに繰り返し現れる事象に着目し、それを分析の対象とする箕浦(1999)の手法を用い、中国朝鮮族の①言語習得の背景、②各言語に対する意識、③アイデンティティについて記述と分析・考察を行う。

データの考察から、研究目的について以下の4点の結論が得られた。(1)複言語話者は複数の言葉を持つことで一つの言語に依拠することのない柔軟なアイデンティティを形成することができる。(2)言語意識とアイデンティティは相互に深く関わっている(作用する)と同時に、移動および越境の影響を受けることが明らかになった。つまり言語意識とアイデンティティは越境による複言語・複文化および異文化接触により変化する。(3)言語意識およびアイデンティティは移動および越境を通して自身の持つ言語や文化に対する理解を深めると同時に、マジョリティ社会と自己と異なる点を認識していく。(4)他者から付与された多種多様なカテゴリーによって、自分は何者であるのかという自身のアイデンティティを問うようになる。その時々の周囲の人々の視点によってアイデンティティが流動的に変化しているのを見ると、アイデンティティは固定的なものではなく、可変的だということがあきらかになった。

本研究は、中国朝鮮族の2名に限られた事例研究である。今後は量的研究のアンケート調査と質的研究のインタビューを併用し、中国朝鮮族の言語意識およびアイデンティティを一層深く探りたい。さらに本研究にも関わってきた在日コリアンの言語意識とアイデンティティについても調査を行い、中国朝鮮族の言語意識との相違点について比較調査を行いたいと考える。

参考文献

<日本語文献>

小野原信善・大原始子(2004)『ことばとアイデンティティー　ことばの選択と使用を通して見る現代人の自分探し―』三元社.

韓景旭(1995) 「中国『内地朝鮮族』のエスニシティー若者三世の事例を中心として」『民族学研究』60巻第3号.

カン・ジェシッ(1992) 「中国朝鮮族の民族意識に関する研究」『慶熙大学校大学院高鳳論集』. pp. 11－18.

金英実(2011) 「中朝バイリンガルの言語意識に関する事例研究」桜美林大学大学院言語教育研究科紀要『言語教育研究』第2号.　pp. 21－30.

金英実(2012) 『中朝バイリンガルの言語意識―中国朝鮮族の社会言語環境からの考察―』桜美林大学大学院国際学研究科博士論文.

小泉聡子(2010) 「日英バイリンガルの言語と情意に関する一考察―複言語主義的観点から一」『桜美林大学言語教育論叢』第6号.　pp. 17－27.

中島和子(2001) 『バイリンガル教育の方法－12 歳までに親と教師ができること－【増補改訂版】』アルク.

藤井幸之助(1993)「中国朝鮮族の二重言語および民族意識に関する予備調査」徐龍達先生還暦記念委員会編『アジア市民と韓朝鮮人』日本評論社.

細川英雄・西山教行(2010)『複言語・複文化主義とは何か―ヨーロッパの理念・状況から日本における受容・文脈化へ』くろしお出版. pp. 21－29

箕浦康子(1999) 『フィールドワークの技術と実際―マイクロ・エスノグラフィー入門』ミネルヴァ書房.

村岡英裕(2002)「2－8質問調査:インタビューとアンケート」J. V. ネウストプニー・宮崎里司編『言語研究の方法　言語学・日本語学・日本語教育学に携わる人のために』くろしお出版. pp. 125－142.

<中国語文献>

胡文仲(2001)「我国外国語教育的得与失」『外国語教育研究』第33巻第4期.

金炳善(1992) 「延辺朝鮮族の双語教育」『民族語文』第2期　延辺边人民教育出版社. pp. 75－81.

金強一(2004)「朝鮮族社会人口流動和集居地空洞化問題的対策研究」『東疆学刊』第21 巻第3期.

<朝鮮語参考文献>

崔允甲(1994) 『중국조선한국에서의조선어차이에대한연구(中国・朝鮮・韓国での朝鮮語異についての研究）』연변대학출판사(延辺大学出版社).

全学錫(1991)「중국에서의조선어의발전과연구(中国における朝鮮語の発展と研究)」

金承哲主(2003)「현대중국조선족연구-21　세계를향해달리고있는중국조선족」（現代中国朝鮮族研究一 21 世紀へ向かって走る中国朝鮮族）연변대학출판사（延辺大学出版社）. pp.　237-258.

<英語文献>

Cummins, J. (2001b) Bilingual Children's Mother Tongue : Why is it important foreducation Sprogforum.　7 (19), pp. 15－20.

Landry, R. & Allard, R. (1991) Can Schools Promote Additive Bilingualism in MinorityGroup ChildrenIn Malave, L. &Duquette, G. Culture and Cognition：ACollection of Studies in First and Second Language Acquisition, Clevedon : Multilingual Matters, pp. 198－231.